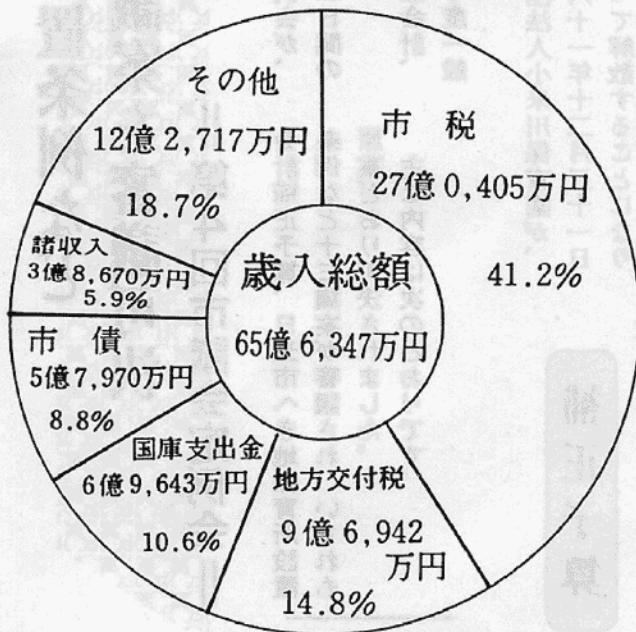


# 昭和60年度

## みなさんの税金は こう使われました

### 歳入の状況



### 歳入

#### 地方交付税伸びる

まず、歳入（収入）の状況をみますと、総額は六十五億六千三百四十七万円で、前年を占めるのは、市税で二十七億

十二月市議会定例会で、昭和六十年度一般会計・特別会計の決算が認定されました。決算の主な内容をお知らせします。昭和六十年度の一般会計決算額は、歳入が六十五億六千三百四十七万円、歳出六十四億二千九百九十二万円、残額一億四千五百五十五万円となりました。これは、昭和五十年度の決算額に対し、およそ二倍になります。

### ◆ 特別会計決算額

項目	歳入	歳出
国民健康保険	9億2,038万円	9億1,567万円
ユースホステル	1,746万円	1,610万円
小来川診療所	2,826万円	2,466万円
下水道	5億1,202万円	5億0,064万円
老人保健	9億6,656万円	9億5,706万円

億四百五十五万円（前年度比二・八%増）です。市税の主なものは、市民税が八億八千三百万円、固定資産税が十二億三千八百四十万円、たばこ消費税一億二千六百三十万円、電気税二億七百五十九万円などです。つぎに大きなウェイトを占めるのは地方交付税で九億六千九百四十二万円（前年度比一七・八%）、次いで国庫支出金六億九千六百四十三万円（前年度比二・八%増）などとなっております。歳入を大別しますと、自主

#### 観光・文化の拠点

#### ◀ 日光郷土センター完成

財源と依存財源にわけることができません。自主財源は、市がみずから調達できる財源で、市税や使用料、手数料、財産収入などがあります。依存財源は、国・県の意志決定や基準に基づくもので、地方交付税や国・県支出金、地方債などです。自主財源の占める割合が高いほど、独自の政策が展開でき、健全財政といえます。昭和六十年度の自主財源構成比率は、六〇・四%となりました。

